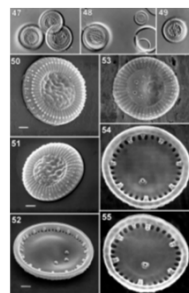
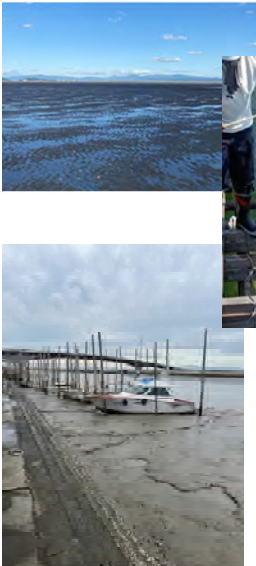


令和6年度若手研究者活動支援制度助成金 公開成果報告会

国際エメックスセンターは、閉鎖性海域の環境保全に資する研究に取り組む若手研究者の育成支援に取り組んでいます。令和6年度の助成対象となった7名の若手研究者が得た研究成果を広く一般のみなさんに知っていただくため、公開成果報告会を開催します。若手研究者の新しい研究にご興味のある方は、ぜひご参加ください。



参加費
無料

2025年
5月20日(火) 13:00~16:45

スペースアルファ三宮 大会議室

〒651-0021 神戸市中央区三宮町1-9-1 三宮センタープラザ6F

[アクセスMap](#)

定員 先着250名

会場参加 定員50名
Zoomウェビナー定員200名

【電車をご利用の場合】

JR三ノ宮駅、各線「三宮」駅より徒歩約5分

13:00	開会の挨拶		
13:05	研究発表	餌料環境の変化が二枚貝浮遊幼生に及ぼす影響の解明と浮遊幼生の着底評価指標の開発	水産研究・教育機構水産技術研究所廿日市拠点 研究員 岡村 知海
13:35	研究発表	有明海における遡河回遊魚エツの産卵・回遊生態の解明と保全に関する総合的研究(その3)	東京大学 大気海洋研究所 助教 板倉 光
14:05	研究発表	アマモ場におけるブルーカーボン貯留経路としての透明細胞外重合物質粒子および粒状有機炭素の変動要因の解明	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所 准教授 伊佐田 智規
14:35	研究発表	陸域—海域—生態系統合モデルを用いた宮城県志津川湾デジタルツインの開発(その2)	東京科学大学 環境・社会理工学院 准教授 中村 隆志
休憩 10分			
15:15	研究発表	炭素収支の解明を主とした沿岸域の炭素・栄養塩の動態把握：富山湾をモデルケースとして(その2)	富山大学 学術研究部 理学系 特命助教 小林 英貴
15:45	研究発表	タイ湾奥部におけるミドリヤコウチュウの生態と赤潮発生に伴う環境変化の解明	香川大学 瀬戸内圏研究センター 特命助教 中國 正寿
16:15	研究発表	潮汐と海底湧水を反映した干潟の基礎生産過程：機械学習と連続観測によるアプローチ	熊本県立大学大学院 環境共生学研究科環境共生学専攻 博士後期課程 尾崎 竜也
16:45	閉会		

〔主催〕(公財)国際エメックスセンター

詳細はHPをご覧ください <https://www.emecs.or.jp/topics/20250520>

岡村 知海

水産研究・教育機構
水産技術研究所廿日市拠点
研究員



これまでの研究・観測から微小珪藻類が二枚貝浮遊幼生の餌として好適で、それらが繁茂することが二枚貝類の生産にとって重要であることが示唆されました。また、微小珪藻類の組成が二枚貝生産の基盤となる着底の成否や幼生の生理活性に影響を及ぼすことが考えられました。本研究では餌生物の違いがマガキ浮遊幼生の成長・生残や生理活性等に与える影響を明らかにするため、室内飼育試験を行いました。さらに、広島湾においてマガキ型幼生の生理活性の程度と着底の成否との関係を調べました。

板倉 光

東京大学
大気海洋研究所
助教



エツという魚をご存知でしょうか？カタクチイワシの仲間であるエツはアジアに広く分布し、日本では有明海にのみ生息します。彼らは閉鎖性海域、特に高濁度域に依存し、海と川間を回遊するため、高濁度域の健全性や海と川の接続性を示す良い指標になり得ると考えています。私は本種の産卵・回遊生態の理解を通して、閉鎖性海域の環境やエツ資源の保全に貢献することを最終目標として研究を進めています。

伊佐田 智規

北海道大学北方生物圏フィールド
科学センター厚岸臨海実験所
准教授



アマモ場によって吸収・貯留される炭素「ブルーカーボン」は、気候変動緩和機能として重要です。透明細胞外重合物質粒子は周りの粒子を凝集させる接着剤として働くことが知られていますが、藻場での研究はほとんどありません。新たな炭素貯留経路を解明し、ブルーカーボン生態系保全へ貢献する事を目指しています。

中村 隆志

東京科学大学
環境・社会理工学院
准教授



近年の地球温暖化や海洋酸性化は、半閉鎖性内湾の貧酸素化および酸性化を深刻化させ、カキなど水産資源に影響を及ぼす恐れがあります。本研究では、宮城県南三陸町志津川湾を対象に、将来の環境変動に伴う水産資源の変化を予測し最適な養殖のあり方などについて探索を行うことができる志津川湾生態系デジタルツインの開発を目指して研究を進めています。

小林 英貴

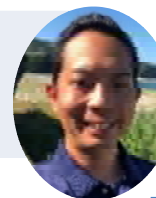
富山大学
学術研究部 理学系
特命助教



この研究では、富山湾の炭素循環の形成メカニズムを理解するためのモデルを構築しています。海洋観測データとモデルを比較しながら、モデルの地形解像度や河川からの淡水供給が海洋物質循環に与える影響を調べました。将来的には、陸起源の栄養塩流入が沿岸海域の物質循環や炭素貯留にどのように寄与しているかを、定量的に解明することを目指しています。

中國 正寿

香川大学
瀬戸内圏研究センター
特命助教



本研究では、タイ湾奥部で発生するミドリヤコウチュウです。ミドリヤコウチュウは、赤潮基準を下回る密度（～1000 cells/L）でも水中のクロロフィル量に大きく寄与し（36%～82%）、高いバイオマスを有することがわかりました。また、アカヤコウチュウよりも、細胞内の炭素が高く、これは共生藻の存在によるものと考えられます。加えて、赤潮後には水中の溶存酸素が著しく低下する現象が確認され、貧酸素水塊の形成に寄与している可能性が示されました。

尾崎 竜也

熊本県立大学大学院
環境共生学研究科
博士後期課程



優れた生態系サービスを提供する干潟の面積は減少傾向にあり、干潟を保全するためにも干潟の生態系の根幹を担う基礎生産者の知見を拡充する必要性が高まっています。この研究は、干潟の植物プランクトンと底生微細藻類を培養実験と係留系による環境変数の連続観測を組み合わせることで、長期間かつ高時間解像度で定量するものです。これにより、従来の研究では評価できなかった長期間の潮汐周期と干潟の基礎生産量の関係を明らかにしました。

【参加申し込みについて】

WEB参加ご希望の方は、**Zoomウェビナー** からお申込みください。

(https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_hoSyRkQTpeX1NYrb3_hlw)

会場参加ご希望の方は、**Googleフォーム** (<https://forms.gle/yE5SuHrwpfSzuJw7>)

もしくは、下記の申込書に必要事項をご記入の上、国際エメックスセンターへメールでお申込みください。



**Zoomウェビナー
QRコード**



**Googleフォーム
QRコード**

令和6年度若手研究者活動支援制度助成金 公開成果報告会

会場 参加申込書

お名前	所属	役職等	参加方法	E-mail
			会場	
			会場	

【お問合せ・参加申込先】

(公財)国際エメックスセンター (担当:大輪)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番2号

TEL 078-252-0234 FAX 078-252-0404

詳細HP <https://www.emecs.or.jp/topics/20250520>

人と防災未来センター 東館5階

E-mail secret@emecs.or.jp